

令和4年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人守山市文化体育振興事業団	
施 設 名	守山市市民文化会館（守山市民ホール）	
助成対象活動名	普及啓発事業	
内定額(総額)	3,346	(千円)
	公演事業	0 (千円)
	人材養成事業	0 (千円)
	普及啓発事業	3,346 (千円)

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ルシオール AKF 秋色	2022年11月27日	0歳からのコンサート 出演：大阪交響楽団メンバー、栗原未和、森季子、島影聖人、林隆史	目標値	2,000名
		大ホール・小ホール他		実績値	1,917名
2	ルシオール街かどコンサート	2022年10月2日 2023年3月11日	出演：道橋 倫子、関 晴水、飯田 隆、望月 稔子 / 堀江 恵太、相原 瞳、後藤 彩子、水野 奈美	目標値	280人(1公演/70人)
		市内公民館、図書館		実績値	321人
3	ルシオール音楽塾	2022年8月21日、9月11日、12月4日	講師：岡田暁生、中村孝義、青山登志和 出演：イリーナ・メジューエワ、日本センチュリー交響楽団他	目標値	450人(1講座/150人)
		小ホール		実績値	315人
4	中山道・守山宿 旅への誘いコンサート (vol. 14、vol. 15)	⑭2022年7月18日 ⑮2023年1月22日	⑭出演：石上真由子、江崎萌子 ⑮出演：溝越美詩、五島真澄、植松さやか	目標値	400人(1公演/200人)
		小ホール		実績値	258人
5	ルシオール・クラシックス (リサイタル・アンサンブルシリーズ) vol. 04、vol. 05	④2022年6月25日 ⑤2022年11月19日	④出演：石橋栄実、清水徹太郎、關口康祐、横原千史 ⑤出演：萩原麻未、横原千史	目標値	400人(1公演/200人)
		小ホール		実績値	180人※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

市民ホールが行う事業のミッションを、①人間の知性と感性、身体的能力の可能性へ挑戦する優れた実演芸術を提供する、②市民が文化芸術の担い手となる、③守山に文化芸術の創造力をプロデュースし、アーティストを育てる、④守山の歴史や地域資源を活かす、⑤長期的・継続的な取組を行う、の5点とし、これに沿って守山市の文化芸術の基盤を作るための普及啓発事業として「ルシオール AKF 秋色」「ルシオール音楽塾」「中山道守山宿旅への誘いコンサート」「ルシオール街かどコンサート」「ルシオール・クラシックス（リサイタル/アンサンブルシリーズ）」の5事業を組み立て、新型コロナウイルス感染症の影響により、出演者の変更や入場者の減少などもあったが、おおむね当初予定のとおり事業を進めることができた。

【ルシオール AKF 秋色】

平成26年度からの継続事業で0歳児から楽しみ、クラシックコンサートへのデビューの機会を提供している。音楽ワークショップの開催など、大阪交響楽団メンバーや様々なアーティストの出演により、子どもたちやファミリー層が楽しみながら実演芸術に親しめる機会を作っている。

【ルシオール音楽塾】

クラシック初心者の方から愛好者まで満足できる事業としている。出演者も協定を結ぶ日本センチュリー交響楽団や協力・連携をしているびわ湖ホールの声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー、関西圏を中心に活躍している奏者など、高い演奏技術による良質な音楽を届けることができた。第25回（8月21日）に関しては、新型コロナウイルス感染症により出演者の変更（1名）が生じた。

【中山道守山宿 旅への誘いコンサート】

地域資源や歴史等とクラシック音楽を関連付けたコンサートにすることによって、クラシック音楽への関心を高めるとともに、地元の魅力を再認識することにつながった。また、関西圏を中心に活躍するアーティストの優れた演奏を提供することができた。

【ルシオール街かどコンサート】

劇場まで足を運ぶことが困難な方が在住地域で気軽に聴くことができるコンサートはニーズが高く、アンケート結果や来場者からもからも、継続して開催を求める声が多く聞かれた。

【ルシオール・クラシックス（リサイタル/アンサンブルシリーズ）】

日本や世界で活躍しているアーティストによる最先端の演奏を提供することで聴衆の関心を高めることができた。また、近くの劇場で一流の演奏を間近で鑑賞でき感動したとの声が多く聞かれた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

守山市は若い世代の割合が高く、教育・子育て環境の充実が市の重要な課題となっている。「第5次守山市総合計画」では、文化・芸術は、市民が真にゆとりと潤いの実感できる心豊かな生活を実現していくうえで不可欠なものであり、文化・芸術の振興と、市の経済活動やまちづくり活動は密接に関連し合うと位置づけられている。

「守山市教育行政大綱」では、1年を通して、子どもから大人まで誰もが気軽に本格的な文化・芸術に親しめる機会を設けると規定されている。これに基づき市民ホールにおいて、子どものための事業や実演芸術の普及啓発事業が始まることとなった。

0歳児から鑑賞できる子どものための事業として「ルシオール AKF 秋色」、地域の公民館や図書館など身近な場所で気軽にクラシック音楽を聴ける「街かどコンサート」、知的なアプローチを望む人たちに応える「ルシオール音楽塾」、地域資源、ふるさとの文化資産等の再発見と関連づける「旅への誘いコンサート」、更に世界的に活躍し、大都市圏でしか鑑賞ができないアーティストを地元のホールに招く「ルシオール・クラシックス（リサイタル/アンサンブルシリーズ）」の5つの事業を構築している。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

5時事業全体の入場者・参加者数に関しては目標値 3,530 人に対して実績値 2,991 人、目標達成率 84%だった。

【ルシオール AKF 秋色】

大ホール公演、小ホール公演に加えて、コロナ禍で中止していた鑑賞無料のロビーでの公演を再開し子どもたちやファミリー層に実演芸術への関心を高めることができ入場者・参加者数の目標値 2,000 人に対し実績値 1,917 人で、ほぼ目標を達成できた。また当日の来場者から、コロナ禍により家族で出かける場所や、子ども達がリアルに実現芸術に触れる機会・ワークショップに体験できる機会が大幅に減っていた中で、低価格や無料で参加できることについて、ありがたいという声を多くいただいた。アンケートによる公演内容の満足度は「大変良い・良い」が 87%となり、目標値の 85%を達成できた。

【ルシオール街かどコンサート】

コロナ禍で昨年度は中止していたが、コロナ対策として発声等が無い弦楽四重奏の公演を実施し入場者・参加者数の目標値 280 人に対して、実績値 321 人と目標を達成できた。アンケートによる公演内容の満足度は「大変良い・良い」が 70%程度に留まったが、20%程度が無回答だった。公演終了時には劇場まで足を運ばずに地域で鑑賞できる公演については、今後も継続して開催して欲しいとの声も多く聞かれた。

【ルシオール音楽塾】

実演芸術に対し知的アプローチを求める人たちのニーズに応えるとともに、優れた実演を提供しようとするもので、入場者の目標値 450 人に対し実績値 315 人と目標に達しなかったが、参加者の満足度も高い事業（アンケートでは、大変良い・良いが 83%、(目標値 85%にほぼ近づけた)参加が 2 回以上のリピーター率 78.3%)として定着してきている。

【中山道守山宿 旅への誘いコンサート】

ワンコイン (500 円) で気軽に来場でき、地域資源や歴史等とクラシック音楽を関連付けたコンサートにすることによって、クラシック音楽への関心を高めるとともに、地元の魅力を再認識することにつながった。アンケート結果の大変良い・良いが 79.3%と目標の 85%には若干届かなかったが、19%程度が無回答だった。入場者の目標値 400 人に対し実績値 258 人と、入場者の目標は達成できなかった。

【ルシオール・クラシックス (リサイタル/アンサンブルシリーズ)】

入場者の目標値 400 人に対し実績値 180 人と目標に達しなかったが、世界的に活躍し、今後も活躍が期待されるアーティストの公演を実施することにより、普段触れることの少ない第一線のアーティストの鑑賞機会を提供することができ、アンケート結果の大変良い・良いが 89.3%と目標値の 85%を達成でき非常に満足度の高い公演となったと考えている。また、50 代以下の若年層・壮年層の来場者の割合が全体の 35%以上と目標値をたてたが、49%と達成することができた。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【ルシオール AKF 秋色】、【ルシオール音楽塾】、【中山道守山宿 旅への誘いコンサート】、【ルシオール・クラシックス（リサイタル/アンサンブルシリーズ）】については、当初の計画通り実施することができた。

市内の各施設に出向くアウトリーチ事業の【ルシオール街かどコンサート】は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑み、年度前半での開催は控えて、後半で開催した。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業費については当初予算 8,982,000 円に対して、決算額が 7,041,861 円となり、 $\Delta 1,940,139$ 円となった。

原因は電気料金が異常に高騰したことに伴い経費削減の必要があり、広告宣伝費の削除を余儀なくされたことによる。

収入について当初予算は 2,195,000 円に対し 1,039,900 円となり $\Delta 1,155,100$ 円となった。

新型コロナウイルスの感染拡大状況で、クラシック事業の主な客層である高齢者が完全に戻りきっていないことも一因と考えるが、有料入場者数を増やし収入を増やす一層の努力が必要である。

※ルシオール・クラシックスについては、高齢者が主要な客層と予想され、また事業開催から 3 年度目であり、固定客を未だ確実につかめていないと考えられ、これらから集客に際して、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたと考えられる。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

実演芸術において創造性を発揮するためには、優れた作品を優れた演奏で提供することが基礎となる。実演家の起用に当たっては、日帰り圏からが望ましいという現実的な事情も含め、特に関西圏での創造力の蓄積に寄与できることを考慮している。このため、関西圏で活躍する若手・中堅の演奏家を基本に、プロデューサーが事前に実演で確認することを原則に優秀な人材の起用に努めている。

オーケストラについては、日本センチュリー交響楽団と協力協定を結び、「ルシオール音楽塾」や「街かどコンサート」でのアンサンブル公演への出演により、オーケストラの団員個人が能力を発揮する場を設け、聴衆にも団員個人に注目できる機会をつくっている。

また、滋賀県ではびわ湖ホールによるオペラ制作が実演芸術の創造活動の中心であり、びわ湖ホール声楽アンサンブルは関西での声楽家育成の重要な団体となっていることから、OB・OGであるソロ登録メンバーの中から、「ルシオール音楽塾」「ルシオール AKF 秋色」に数人ずつ優れた人材を起用し、びわ湖ホール声楽アンサンブルが育てた人材を更に飛躍させる機会とすることができた。

「ルシオール・クラシックス（リサイタル/アンサンブルシリーズ）」では、全国的・世界的に活躍し、今後も活躍が期待されるアーティストを招くことにより、市民文化会館の役割を再認識するとともに、普段触れることの少ないトップアーティストの演奏機会を提供することができた。

石橋栄実氏については、新国立劇場での出演が続くなど活躍が目立つが、リサイタルの機会は少なくオペラアリアの他日本歌曲も含めた貴重な演奏機会を提供することが出来た。

萩原麻未氏については、舞曲づくしのプログラムを圧倒的な技量で演奏され、ポストトークの司会を務めた音楽評論家、横原千史氏に高く評価され、「演奏年鑑 2023」でも言及された。

また、地方都市においては、日常的にクラシック音楽の実演に接する機会が少ないことから、自分たちには縁がないものと敬遠する傾向が見られる。このため、コンサートでの奏者のトーク、講師の解説、判りやすい基礎的な曲目解説の掲載のほか、「旅への誘いコンサート」では、最初の10分間で、演奏される曲目と何らかの関連のある地域の歴史資産や自然を取り上げ、市民の日常と関連づけるようにしている。これはアンケートでも好意的な反応が多く見られた。さらに、「ルシオール・クラシックス（リサイタル/アンサンブルシリーズ）」においては、音楽評論家の司会によるポストトークを実施し、アーティストの人となりを知る事により、クラシックファンやアーティストのファンを新たに獲得することができ、今後のシリーズの来場者を増やすきっかけとなったと考えている。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

守山市は、中山道守山宿の歴史に代表されるように歴史遺産にも恵まれ、また、守山市文化協会をはじめとする市内文化団体の活発な活動など、文化振興の土壌は豊かである。しかし、気軽なエンターテインメントがあふれ、テレビやウェブ上でも情報が氾濫している昨今では、高度な修練を介して、精神を集中させるなかで新たな価値を創ろうとする実演芸術の場が敬遠されるという傾向も見られる。

市内には一定の熱心な、いわゆるクラシックファンの存在が認められるが、更にこれを広げていくには、コンサートという音楽の場を多様な形にし、聴衆の側からの様々なアプローチが可能なものにする必要がある。

【ルシオール AKF 秋色】

キオスク公演では、守山市・野洲市近郊に住む障害のある人と福祉施設のスタッフ、プロのアーティストと一緒に踊り舞台を創るダンスグループ「湖南ダンスカンパニー」をフィナーレ公演のゲストダンサーとして迎え入れ、フィナーレ公演の盛り上げにご協力いただいた。このことは障害のある方の実演芸術分野における発表の機会を創出し、創造活動のモチベーション向上や多様な人々の交流、相互理解の一助となったと考えている。

また当日、地元商店を中心としたキッチンカーの出店もあり地域の方が多く来場され、日ごろ文化芸術活動に関心が薄い方も、さらに公演を鑑賞することで、文化芸術への関心を高めることができた。

【ルシオール街かどコンサート】

会場によっては予想を上回る集客があり、地域に文化芸術を届ける重要性を再認識させられた。

日本センチュリー交響楽団や関西圏域で活躍する演奏家の実演を無料で実施することで、劇場まで足を運ぶことが困難な方、小さなお子様を連れた方などに優れた文化芸術を届けることができた。アンケート結果から初めて公演に参加される方の割合が 45%、40 代以下の若い世代の参加 15%で、初めてクラシック音楽に触れる人や若い世代にも文化芸術への興味関心を持ってもらうきっかけとなった。

【ルシオール音楽塾】

実演に加えて、音楽学者や評論家などが解説をすることで、音楽を幅広い視点から捉えることに資するとともに、「質問コーナー」のような聴衆と講師、演奏者との双方向性のあるセッションはアンケートなどでも好評を得た。第 27 回のオペラは日本語字幕を投影し、曲の内容の理解をさらに深めることができアンケートでも好評を得た。

【中山道守山宿 旅への誘いコンサート】

演奏される音楽に関連づけた歴史遺産や自然をテーマに取り上げ、演奏の前に地元の関係者が紹介をしている。クラシック音楽に関心のなかった関係者も来場しており、幅広く関心を喚起することに役立った。

また、地域の公民館活動や高齢者サロンの文化活動として、「旅への誘いコンサート」の鑑賞を採択される事例もあり、回数を重ねて実施することで地域での認識度も上がっていることを実感している。

【ルシオール・クラシックス（リサイタル/アンサンブルシリーズ）】

全国・世界で活躍する演奏家を招き本格的なクラシック音楽の鑑賞機会を提供するとともに、ポストトーク等により演奏者の生の声を伝え、実演の魅力をより実感できるように工夫を行うことで、満足度の高い公演を届けることができた。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

【事業運営】

「守山市文化振興アクションプラン（平成 26 年度策定）」において、守山市民ホールは市の文化振興の中核施設として位置づけられ、それにふさわしい事業に取り組んでいる。

令和 4 年度はコロナ禍の影響を受けながらも、助成事業については、すべて実施することができた。また、助成事業すべてでアンケートを実施。その結果を評価・分析するとともに、その結果を組織内部で評価し、見直し、改善、広報への反映など、次年度に向けて PDCA サイクルを回すこととし、自主事業検討会議（年 2 回程度開催）、事業団の経営会議（毎月開催）や各施設のグループリーダーによる会議（毎月開催）で評価、検討を行っている。

【経営戦略】

守山市との指定管理契約については、前期（平成 26 年度～30 年度・非公募）に引き続き、これまでの運営管理に対する市の積極的な評価のもとに、（公財）守山市文化体育振興事業団が平成 31 年度～令和 5 年度も非公募で継続して受託している。また次期経営を担う若手職員の参画のもとで第 2 期中期計画（2022 年度～2026 年度）を策定し計画的に事業を推進している。

財政面においては、コロナ禍の影響により施設利用料及び入場料収入等はコロナ禍以前に比べ落ち込んでおり、さらに光熱水費の高騰と非常に厳しい状況であったが、経費節減と経営努力また積極的な補助金活用（文化庁、経済産業省、守山商工会議所、滋賀労働局、守山市）し、黒字で決算を括ることが出来た。

施設面においては長年の懸案事項であったトイレ洋式化改修工事が完了。開館 37 年が経過し、老朽化に伴う施設整備について、引き続き設置者である守山市と協議しながら計画的な改修・修繕に努めていく。

【人事戦略】

平成 26 年度からはプロデューサー（非常勤）が、平成 28 年度からはディレクターに相当するプロパー職員が置かれている。当該プロパー職員については、2 か月間びわ湖ホールに研修派遣し専門職員としての資質を磨き、その後助成事業を始めとするアートマネジメントを担当している。「ルシオール街かどコンサート」「ルシオール音楽塾」などの助成事業も、上記アクションプランに基づき始まった事業である。平成 31 年度は若手人材育成の取り組みとして、クラシック経験者の舞台技術員（新卒）を有期契約職員として採用した。

また、公立文化施設協議会の研修へも積極的に参加している。

【ネットワークの構築】

助成事業の執行を通じて、びわ湖ホールや日本センチュリー交響楽団とのネットワークの形成、情報やノウハウの交換ができています。

また、全国公立文化施設協議会の定時総会、滋賀県立公立文化施設協議会会議等に積極的に参加し、情報交換を行っている。

【MORIYAMA ルシオール倶楽部】

会員数：企業会員（27 社）、一般会員（241 名）。文化芸術を親しむ会員向けにさまざまな事業の情報提供（毎月）を行うとともに、会員価格でのチケット販売、チケット購入時のポイント付与など会員向けサービスを拡充することで、事業への参加を促し、固定的な顧客となっている。